顛　末　書

名　称	第８回　お出かけ市長室～市長と語ろう！まちづくり意見交換会～
日　時	令和６年 10 月６日（日）　11：30～12：15
会　場	中野市子育て支援拠点施設 HUBLIC　体育館
出席者等	・中野市長　湯本　隆英 ・一般参加者　約 10 名 ・事務局：３名 計 14 名
次第	１　開　　会 ２　第３次中野市総合計画・前期基本計画の策定に向けて ３　市長講演 ４　意見交換 ５　その他 ６　閉　　会
発言内容	別添のとおり

会　議　状　況

会　議　状　況

発　言　内　容
Q　移住してきたが、オムツのゴミ、指定ゴミ袋が高い。前は指定ゴミ袋じゃなくてもっと安いゴミ袋でよかった。 A　都会は透明ならなんでもいいという場所があるかもしれないが、自治体の財政力にもよる。研究する。 Q　整備されたきれいな公園がない。 A　図書館をリニューアルし、子どもも利用しやすくなった。ぜひ利用してほしい。 Q　保育料を０歳から無償化にしてほしい。 A　保育課と研究したい。 Q　子育ての寄り添いがない、お母さんの立場で相談にのったり、解決策を一緒に考えてくれる人がほしい。 A　保健師が異動等で変わってしまうのが問題ということであれば、できるだけ同じ人に相談できるよう努力したい。 Q　小学校入学前のスケジュール、事前にほしい。特に特別支援が必要な子ども。行事の細かなタイムスケジュールがほしい。 A　教育委員会に伝える。 Q　低所得者だけでなく、子どもが多い世帯にも給付金がほしい。 A　個人的な思いなので、意見としてお聞きする。 Q　数時間でも、年齢関係なく子どもを預かってくれる施設がほしい。 A　今もあるのだが、事業の周知をし、充実させていく。 Q　ファミサポが完全に信頼できる事業とは思えない。ちゃんと保育士の資格をもっている人に預けたい。生後３か月で病院に行きたいとき、よく知らない人に預けられるか。何かあったときにその方が責任をとってくれるのか。安いのは知っているが、安い安いだけだと、その分不安も大きい。 A　ボランティアの延長線上でやってもらっている部分が多い。研究する。 Q　公園に腰からすっぽりと入る赤ちゃん用ブランコがほしい。 A　意見としてお聞きする。 Q　ママ友をつくる場所がほしい。 A　ＨＵＢＬＩＣには市内外から多くの人が来るので、ぜひ活用してほしい。

Q　西松屋の歩道の段差が大きすぎて困る。イオンの駐車場とつなげてほしい。市に聞きに行ったときは、「県道なので県へ」と言われた。県へ行ってみる。
A　民間の話なので、公で実施するのは難しい。

Q　里帰り中、上の子が一時保育を使えるようにしてほしい。市内限定としないで。ＨＵＢＬＩＣにも問合せが多くあるが、お断りすることが心苦しい。
A　そのような事例があることも承知している。できる・できないは別にして、要望としてお聞きする。担当課にお伝えする。

Q　出産育休中に保育園に預けられない問題は、平野・高丘保育園が民間として開園したら、解決するということでよいか。例えば、２歳児の子がいて、妊娠した場合、上の子は入れないという認識。元から入っていないと、新規では入れないと聞いた。
A　担当課へ確認して回答する。

Q　部活動が民間へ移行していく。今まで先生が行っていたことが、一般の人がボランティアで実施することになると思う。そこに対する助成は考えていないか。
A　教育委員会へ話をする。

【以下、当日意見】
・医療費無償を 18 歳以下にしてくれて感謝。
・フリースクールをもっと増やしたいが、もっと市からのサポートはないか。
・小学生も預かってくれる場所がほしい。
・長野市などにあるベビーシッターを利用する際に、補助がほしい。
・ひとり親が優遇されすぎではないか。一般家庭にも還元してほしい。
・働き方、有給休暇が増えてほしい。
・医療、遊び場、ママたち・地域の交流、もっと全体的に増やしてほしい。
・食糧支援。
・子どもが遊べる場所、もっとほしい。
・季節天候を気にせず伸び伸び遊べる施設がほしい。HUBLIC もいいが、小学生には飽きてしまう。
・産後ケアの充実。利用方法をお母さんたちは知らない。どういう状況になれば使っていいのか分からない。「自分が子育て全くできなくなった、もう動けない」のときにはじめて使える、というイメージ。
・保育園に入所していると、一時預かりが一切使えない。土日にちょっと預けたいときに預けたい場所がない。